

第2章

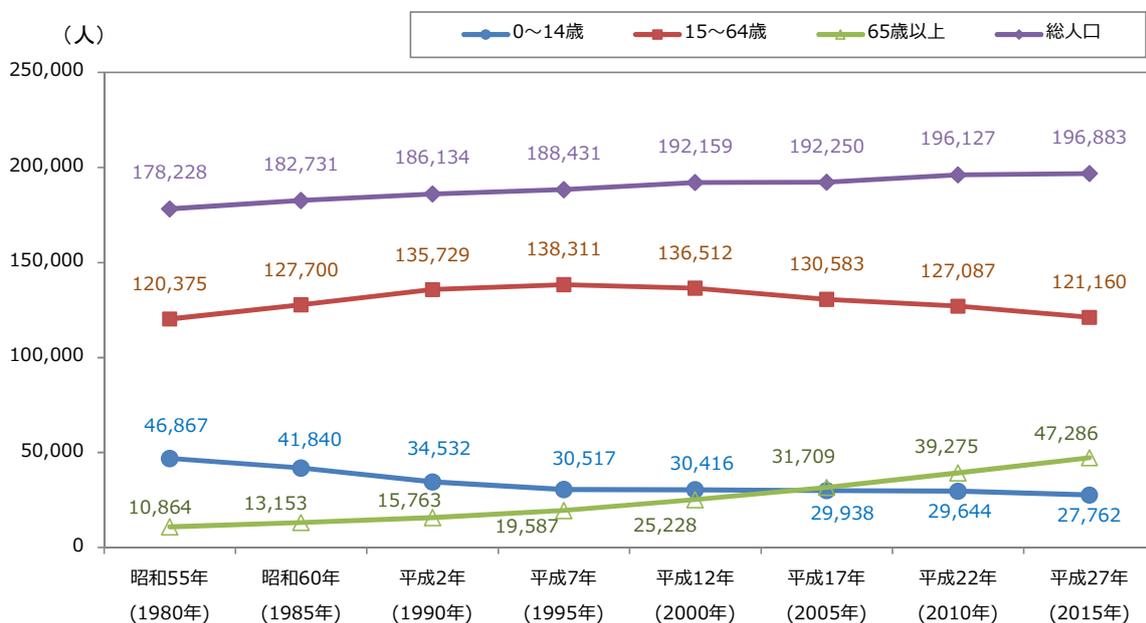
子どもを取り巻く現状と今後の方向性

1 伊丹市の人口

(1) 人口の推移

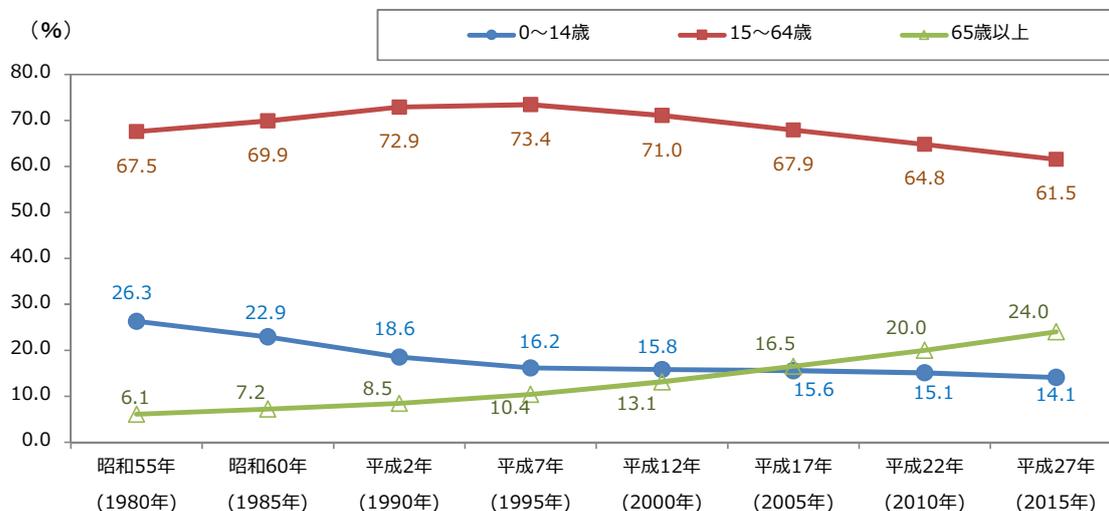
わが国では急速な人口減少時代に突入している中、国勢調査による伊丹市の人口をみると、総人口は微増傾向を保っています。しかしながら、昭和55年（1980年）からの年齢3区分別人口をみると、0～14歳の年少人口が減少傾向にある一方、65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあります。平成17年（2005年）には、0～14歳の年少人口と65歳以上の高齢者人口が逆転しており、少子高齢化の進行がみられます。

■総人口・年齢3区分別人口の推移



資料：国勢調査（各年10月1日時点）

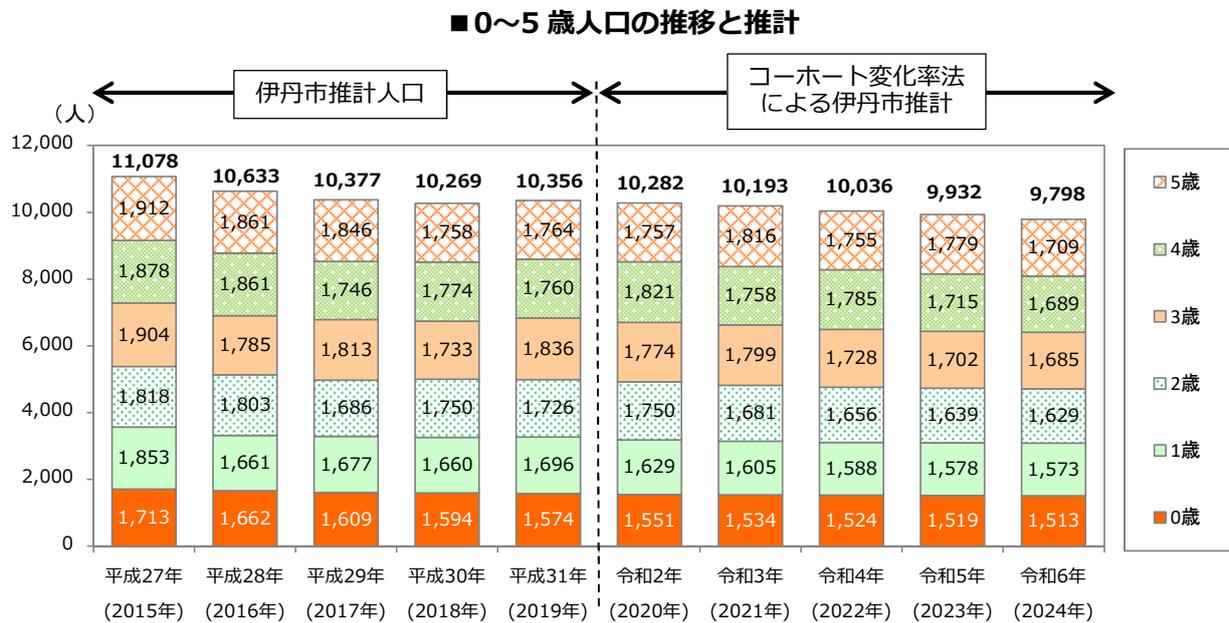
■年齢3区分別人口構成比の推移



資料：国勢調査（各年10月1日時点）

(2) 子ども人口の推移と推計

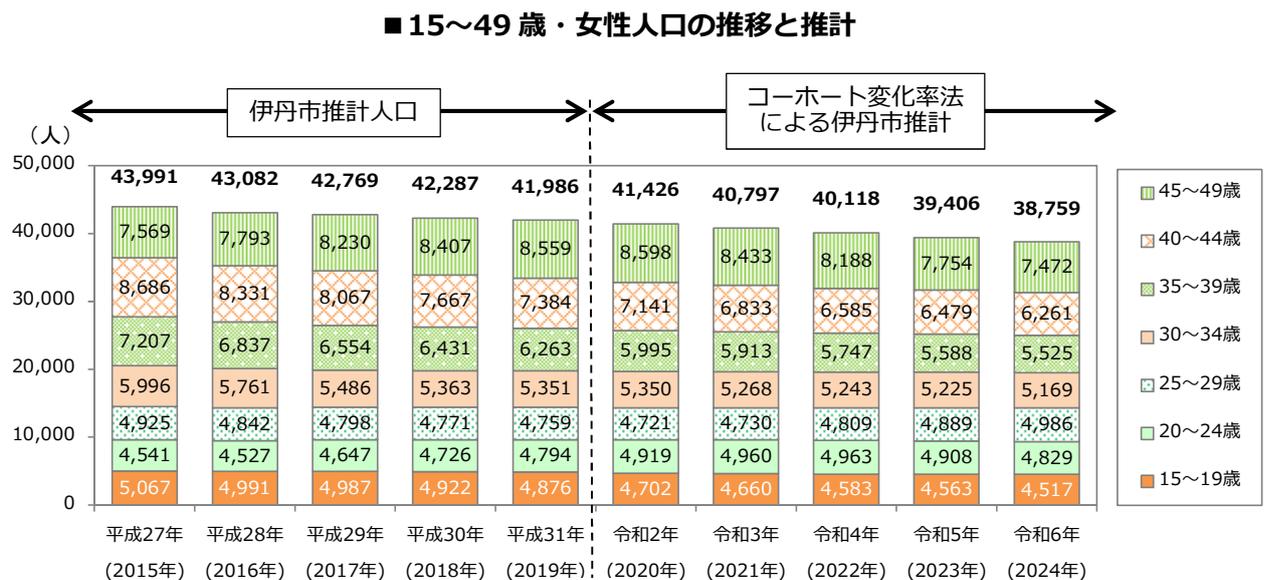
近年の伊丹市の0～5歳の人口の合計は減少傾向にあり、平成31年(2019年)に増加に転じているものの、今後も出生数の減少などにより、令和2年(2020年)以降も減少が続くと見込まれます。



資料：伊丹市推計人口（平成27年（2015年）～平成31年（2019年））、
コホート変化率法による伊丹市推計（令和2年（2020年）～令和6年（2024年））
（各年4月1日時点）

(3) 女性人口の推移と推計

近年の伊丹市の15～49歳の女性人口は減少傾向にあります。今後も出産が可能と考えられる女性の将来人口は減少傾向となり、出生数にも影響すると予測されます。

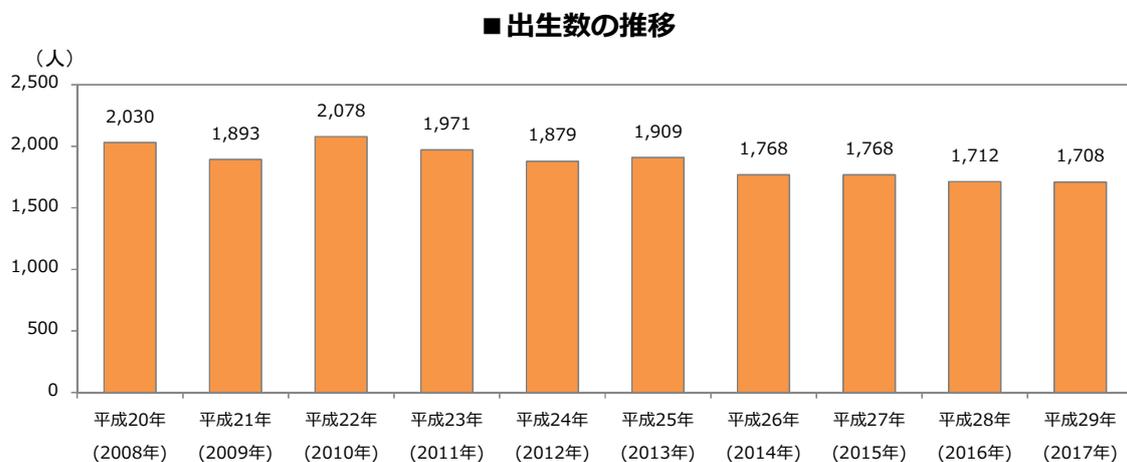


資料：伊丹市推計人口（平成27年（2015年）～平成31年（2019年））、
コホート変化率法による伊丹市推計（令和2年（2020年）～令和6年（2024年））
（各年4月1日時点）

2 伊丹市における出生の状況

(1) 出生数の推移

平成 20 年（2008 年）からの伊丹市の出生数の推移をみると、年による変動はあるものの、減少傾向にあります。



資料：兵庫県保健統計年報

(2) 合計特殊出生率の推移

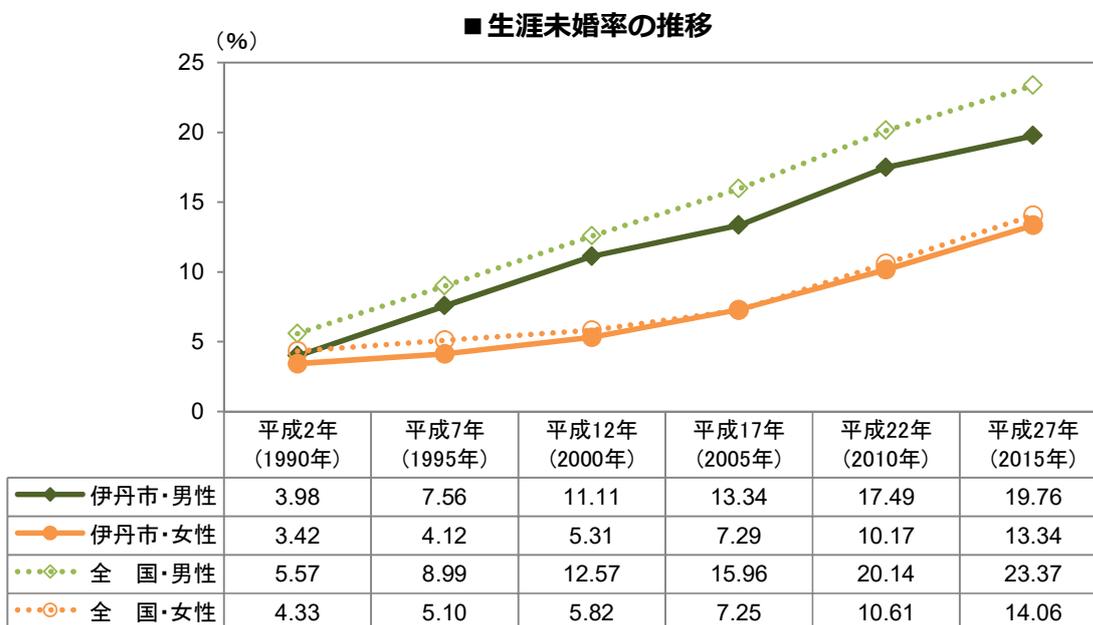
伊丹市の合計特殊出生率は低下傾向を経て、平成 22 年（2010 年）に 1.63 と高まりましたが、平成 27 年（2015 年）に 1.57 になっています。県や国の値を上回って推移しており、近隣自治体と比較しても高い値となっています。



資料：兵庫県保健統計年報

(3) 生涯未婚率の推移

伊丹市における生涯未婚率（50歳時点での未婚率で、45～49歳の未婚率と50～54歳の未婚率の平均）は、男女ともに全国よりも低い値で推移しています。



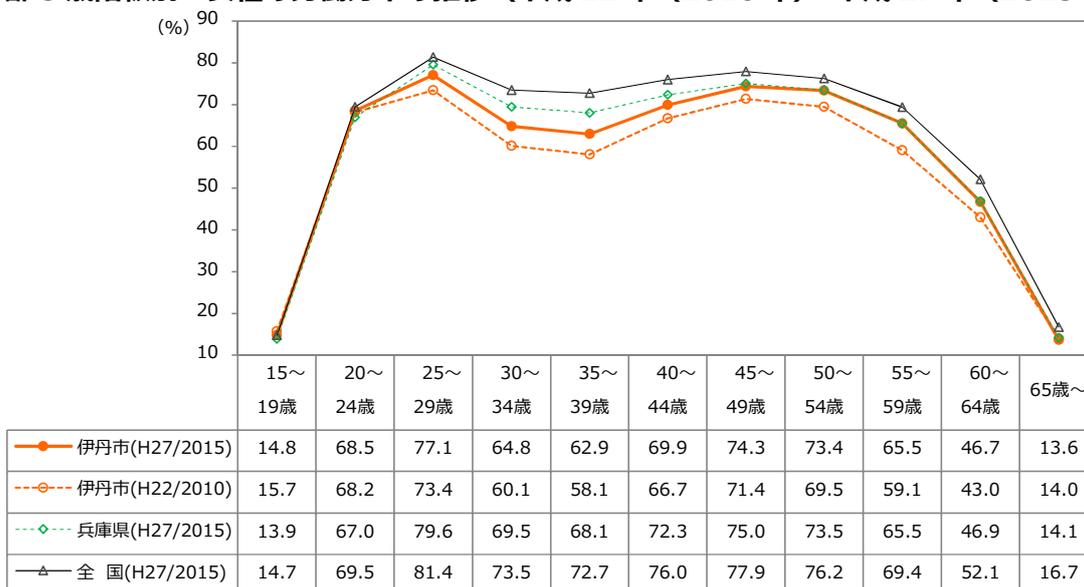
資料：伊丹市は「国勢調査」、全国は社人研「人口統計資料集（2019年）」より算出。

4 伊丹市における就労の状況

(1) 就労の状況

平成27年（2015年）における伊丹市の女性の労働力率を年齢5歳階級別にみると、M字型カーブを描いており、35～39歳でM字の底となっています。25歳から54歳まで、県や国よりも低い値で推移しています。また、平成22年（2010年）と平成27年（2015年）の伊丹市の労働力率を比べると、各年齢階層で労働力率は概ね上昇しています。

■ 年齢5歳階級別・女性の労働力率の推移（平成22年（2010年）・平成27年（2015年））



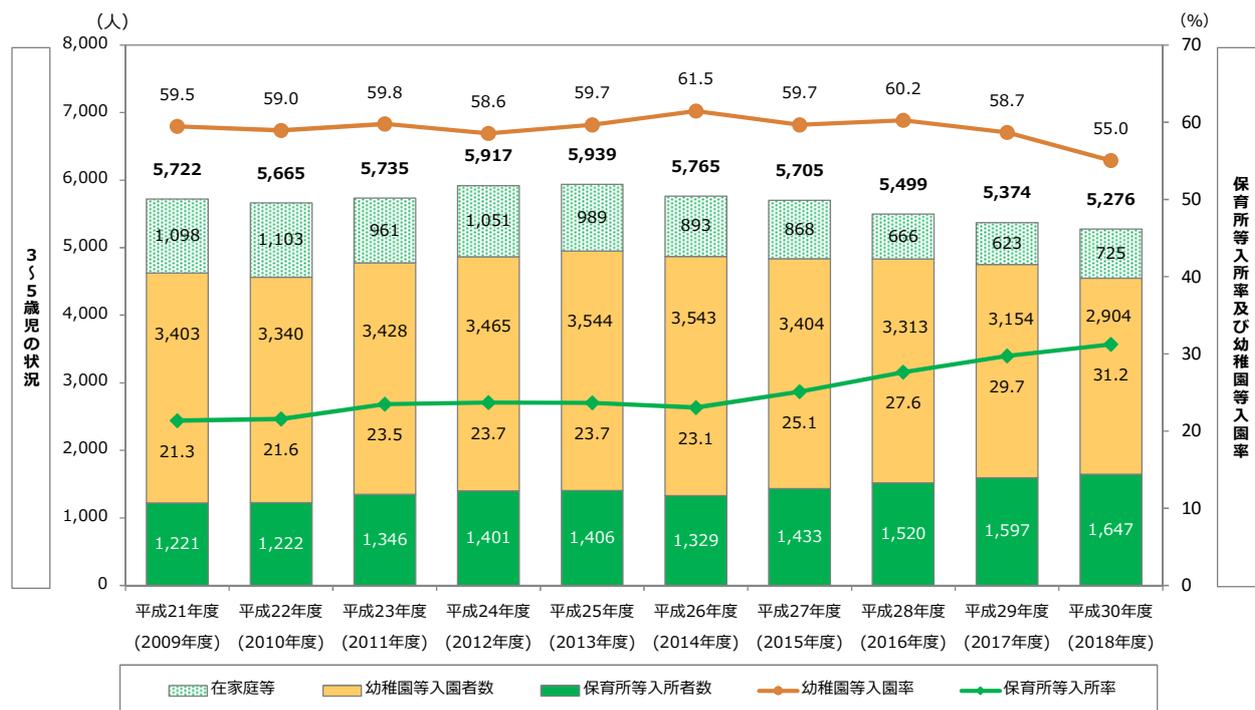
資料：国勢調査 ※労働力率は15歳以上人口に占める労働力人口の割合。不詳を除いて算出。

5 就学前児童の状況

(1) 就学前児童（3～5歳児）の保育所等・幼稚園等利用状況

伊丹市の3～5歳児の状況をみると、幼稚園等入園者、保育所等入所者、在家庭等の順に多くなっています。幼稚園等入園率は過半数となっており、年による増減を経て、近年は減少傾向となり、平成30年度（2018年度）に55.0%となっています。また、平成21年度（2009年度）からの保育所等入所率は2割台で推移していましたが、平成30年度（2018年度）に約3割となっています。

■ 3～5歳児の状況と保育所等入所率及び幼稚園等入園率



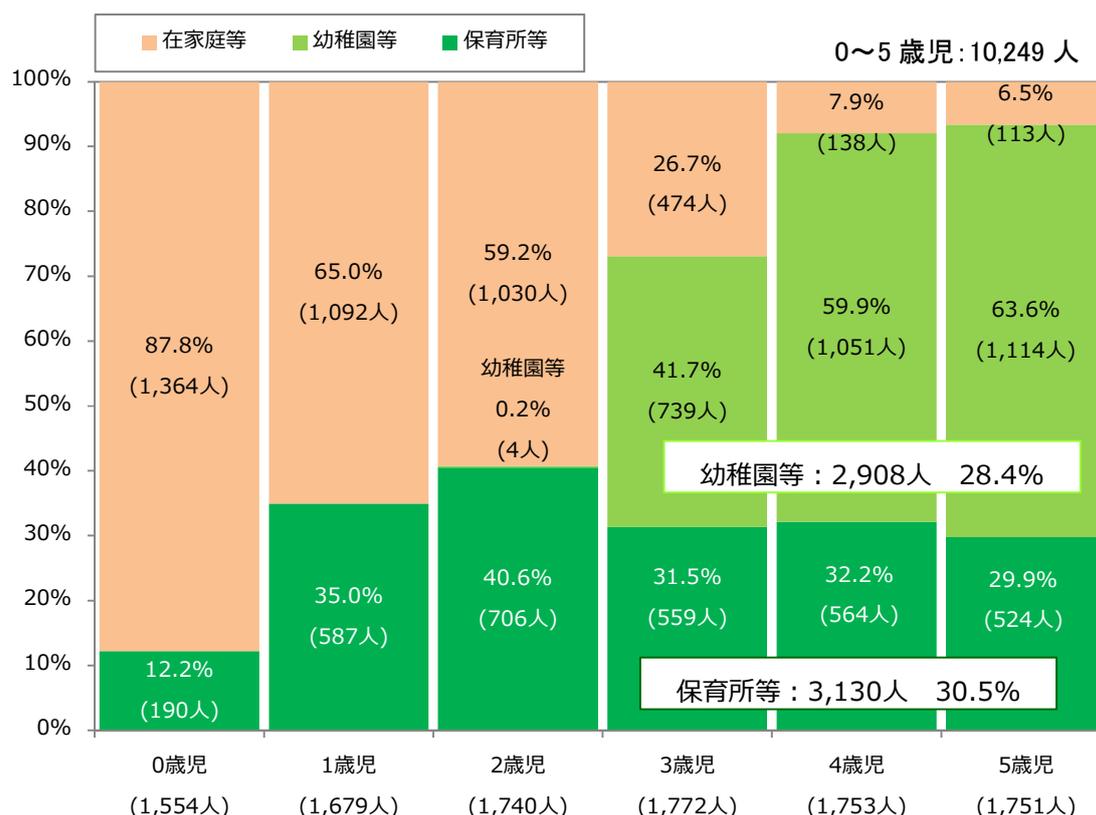
幼稚園等入園者数（各年5月1日時点）・保育所等入所者数（各年4月1日時点）＝伊丹市資料より
 基礎幼児数＝伊丹市推計人口（各年5月1日時点）

※在家庭等には、認可外保育施設を利用する児童を含みます。
 ※保育所等…保育所、地域型保育事業及び認定こども園（保育所機能部分）
 ※幼稚園等…幼稚園及び認定こども園（幼稚園機能部分）

(2) 年齢別就学前児童の居場所

平成30年度(2018年度)の就学前児童について年齢別にみると、「在家庭等」は0歳児で87.8%、1歳児で65.0%、2歳児で59.2%、3歳児で26.7%となっています。一方、「幼稚園等」の利用者は、3歳児で41.7%、4歳児で59.9%、5歳児で63.6%となっています。また「保育所等」の利用者は0歳児で12.2%、1歳児で35.0%、2歳児で最も多く40.6%で、3~5歳児では約3割となっています。

■ 年齢別就学前児童の居場所 (平成30年度 (2018年度))



幼稚園等 (5月1日時点)・保育所等 (4月1日時点) = 伊丹市資料より
基準人口 = 伊丹市推計人口 (5月1日時点)

※在家庭等には、認可外保育施設を利用する児童を含みます。

※保育所等…保育所、地域型保育事業及び認定こども園 (保育所機能部分)

※幼稚園等…幼稚園及び認定こども園 (幼稚園機能部分)

※構成比については端数処理の関係で合計が100%にならない場合があります。

6 子ども・子育て支援に関する調査の結果と分析

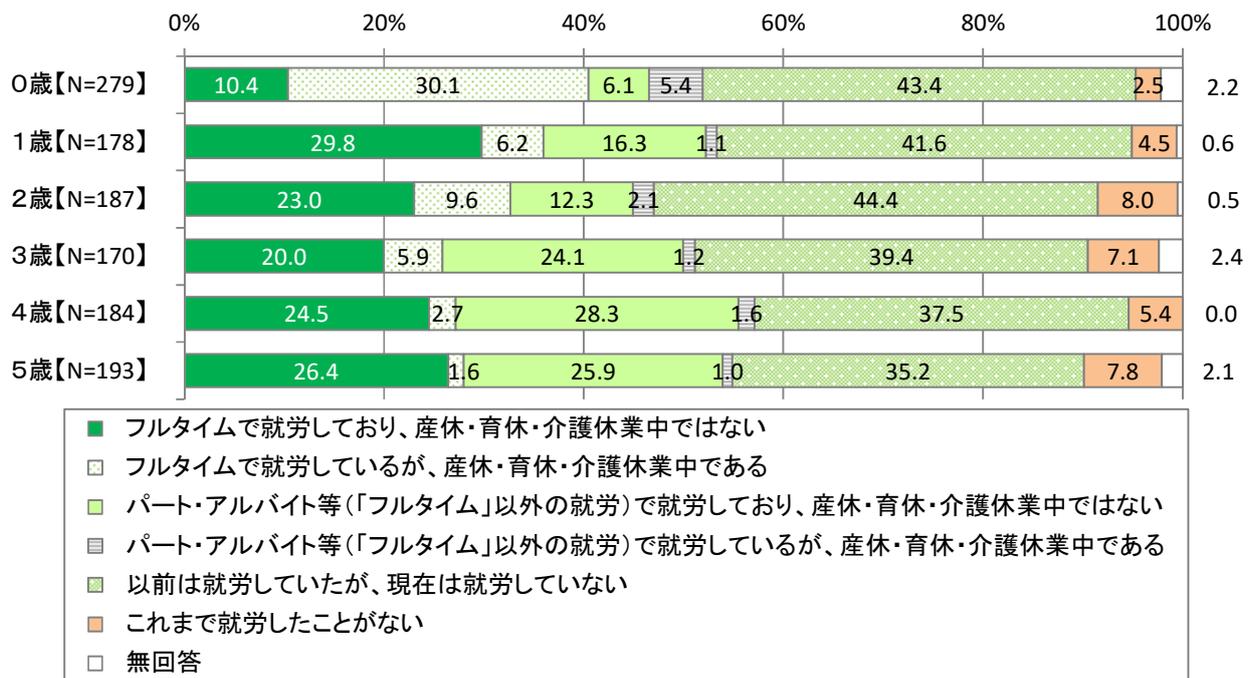
本計画の策定にあたって実施した伊丹市子ども・子育て支援に関する調査の結果のうち、子ども・子育て支援事業の量の見込み・提供体制に関わる主要事項の分析は、以下のとおりとなっています。なお、調査結果は、別途、伊丹市子ども・子育て支援に関する調査結果報告書にまとめています。

(1) 保護者の働き方 ～現在と将来の希望～

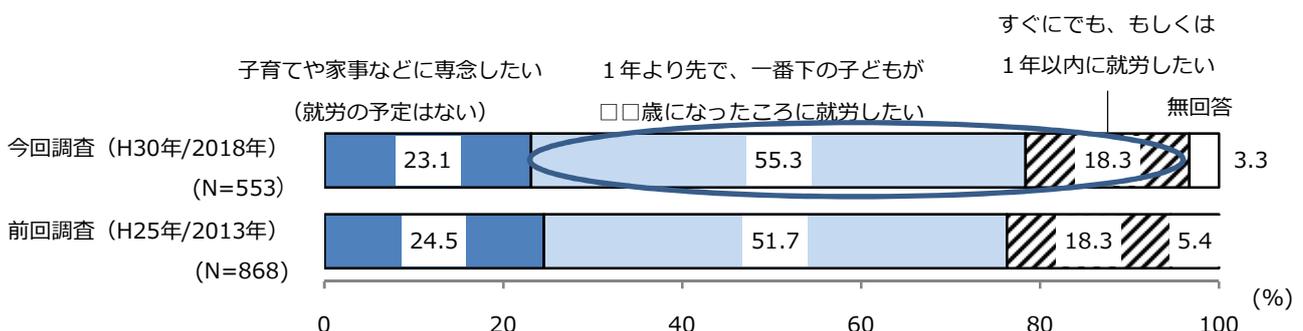
保護者の就労状況については、フルタイムで就労する母親（産休・育休中を含む）の割合は、子どもが0歳では約4割と最も高く、1歳と2歳では3～4割程度、3歳から5歳では2～3割程度と、年齢が上がるごとに減少傾向にあります。また、パート・アルバイトで就労する母親（産休・育休中を含む）の割合は、子どもが0歳では約1割と最も低いですが、1歳と2歳では1～2割程度、3歳から5歳では2～3割程度と年齢が上がるとともに増加傾向にあります。

また、現在就労していない母親の就労希望については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が約2割、「1年より先で、一番下の子どもが□□歳になったころに就労したい」が約5割で、就労希望者は合わせて7割を超えており、保護者の就労意向の高まりがあります。

■ 子どもの年齢別にみた母親の就労状況



■ 「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」方の就労希望

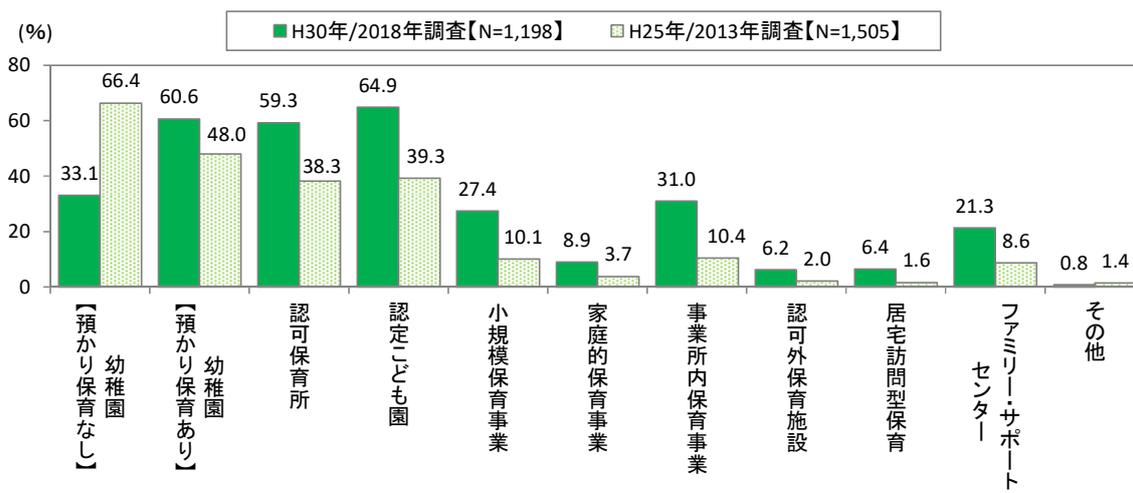


(2) 定期的な幼稚園・保育所などの利用意向

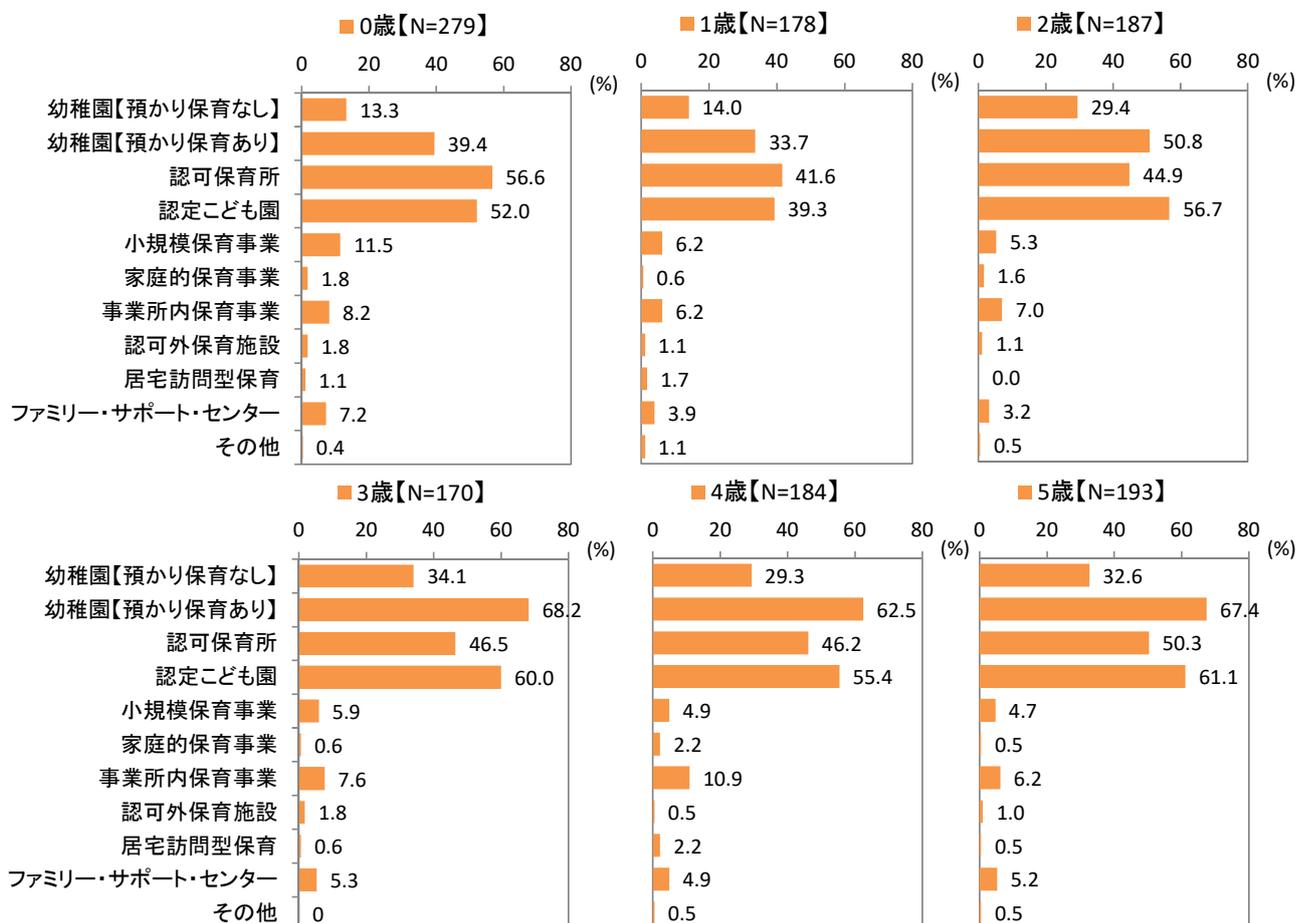
子どもが0～2歳までの保護者にたずねた平日の定期的な利用意向については、前回調査と比べて、認定こども園、預かり保育ありの幼稚園、認可保育所の利用意向が高くなっています。一方で、預かり保育なし幼稚園は、利用意向が低くなっています。子ども・子育てを取り巻く保育・教育サービスの進展にともない、前回調査結果とはニーズが大きく変化しています。

また、年齢別にみると、預かり保育ありの幼稚園の割合は3歳、4歳、5歳で6割を超えており、認可保育所と認定こども園は、全年齢で高い傾向にあることから、多様なニーズに対応できる供給体制が望まれます。

■ 平日の定期的な幼稚園・保育所などの利用意向(0～2歳の方を対象に質問)



■ 年齢別の平日の定期的な幼稚園・保育所などの利用意向(複数回答)

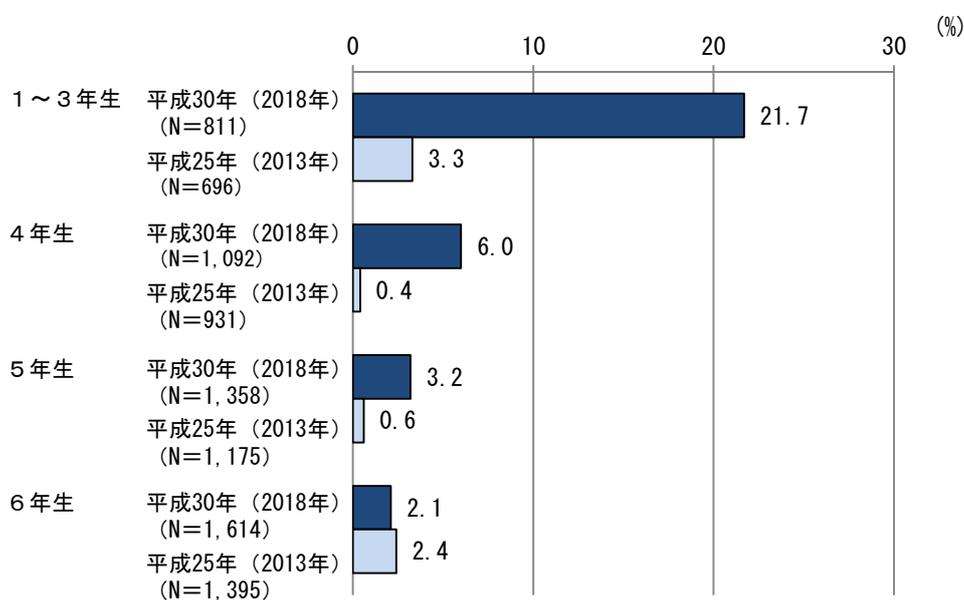


(3) 児童クラブの利用意向

放課後（平日の小学校終了後）の時間を過ごさせたい場所における「児童クラブ」の利用意向は、1～3年生で約2割と高くなっており、前回調査に比べて18.4ポイント高くなっています。また、4年生以降では1割以下と、学年が上がるごとに利用意向は下がっていますが、4年生と5年生では前回調査に比べて利用意向が高くなっています。

■ 放課後の時間を過ごさせたい場所における「児童クラブ」の利用意向

【就学児童調査】

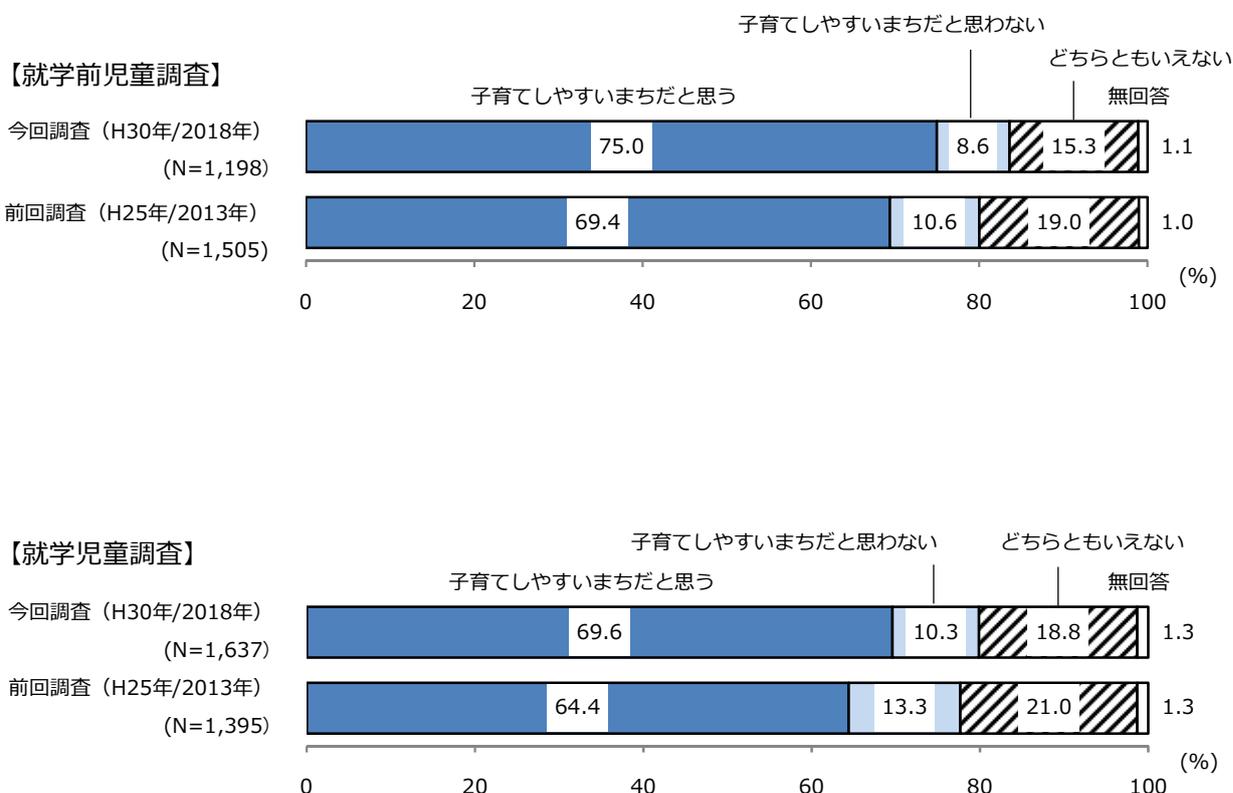


(4) 第1期伊丹市子ども・子育て支援計画の評価について

■伊丹市は子育てしやすいまちか

伊丹市は子育てしやすいまちかについては、「子育てしやすいまちだと思う」が就学前児童調査で75.0%、就学児童調査で69.6%と多く、「子育てしやすいまちだと思わない」は就学前児童調査で8.6%、就学児童調査で10.3%となっており、5年前の前回調査と比較すると、それぞれ「子育てしやすいまちだと思う」と回答した人が増え、「子育てしやすいまちだと思わない」と回答した人が減っていることから、子育てに関する取り組みが、着実に進んでいるものと考えます。

一方で、「子育てしやすいまちだと思わない」と回答した人のうち、就学前児童(N=103)では、「保育所、幼稚園などに空きがない」、「公園や児童センターなど子どもの遊び場が少ない」などの回答が多く、就学児童調査(N=168)では、「公園や児童センターなど子どもの遊び場が少ない」などの回答が多かったことから、第2期計画では、就学前教育・保育施設の充実や、子どもの遊び場・居場所づくり等に取り組むことが必要です。

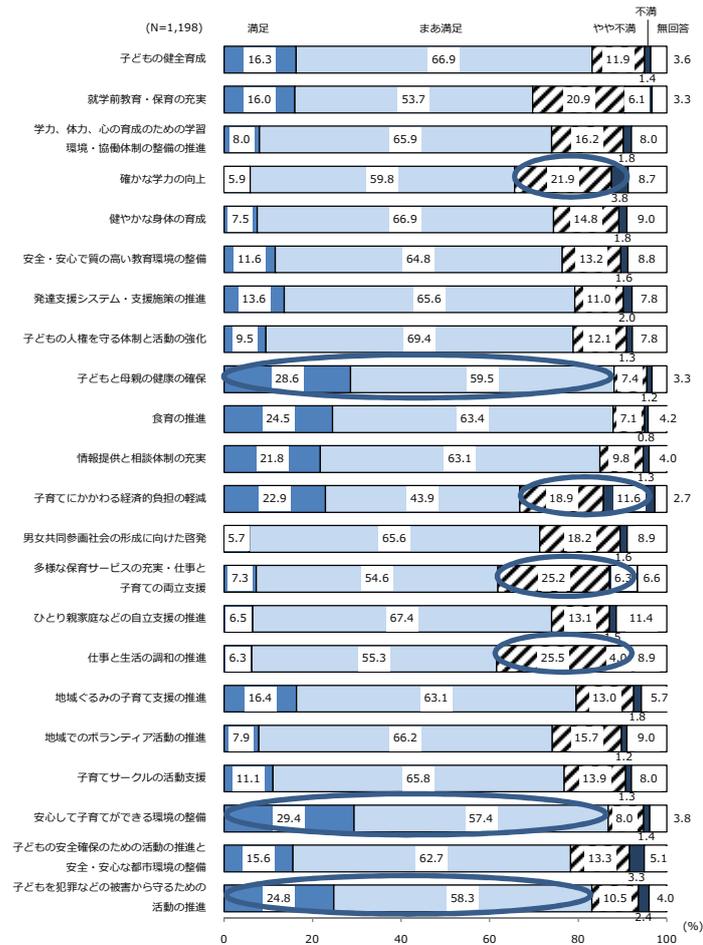


■伊丹市の子育て支援施策・事業の満足度

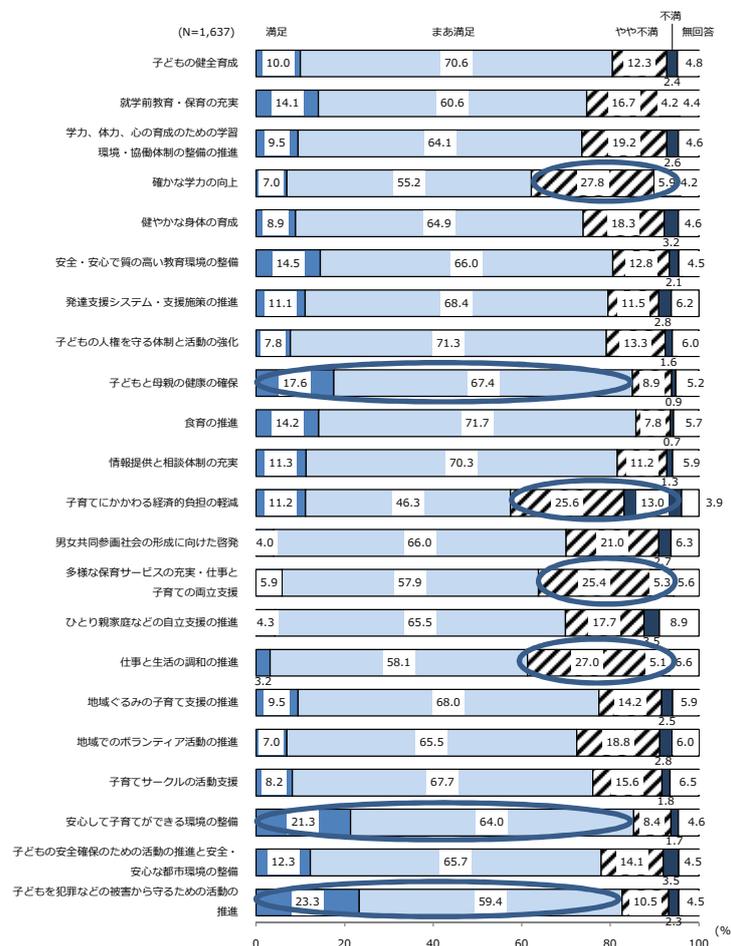
就学前児童調査・就学児童調査ともに、「子どもと母親の健康の確保」、「安心して子育てができる環境の整備」、「子どもを犯罪などの被害から守るための活動の推進」の満足度が高く、一方、「確かな学力の向上」、「子育てにかかわる経済的負担の軽減」、「多様な保育サービスの充実・仕事と子育ての両立支援」、「仕事と生活の調和の推進」の満足度が低い状況があったことから、第2期計画において、さらに特に取り組むを進める必要があります。

■伊丹市の子育て支援施策・事業の満足度（続き）

【就学前児童調査】



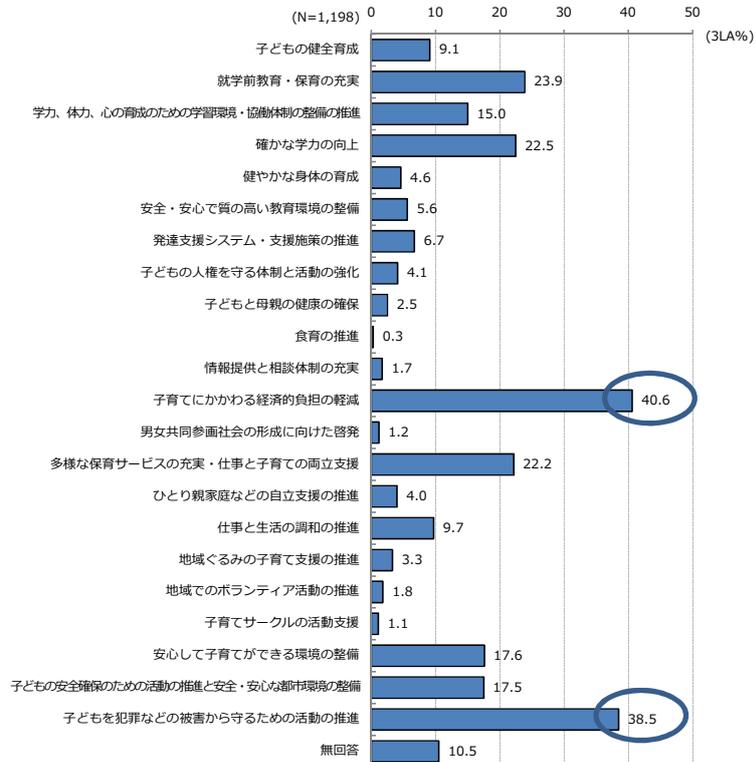
【就学児童調査】



■今後、力を入れていくべき項目

就学前児童調査では「子育てにかかわる経済的負担の軽減」が 40.6%と最も多く、次いで、「子どもを犯罪などの被害から守るための活動の推進」が 38.5%となっており、就学児童調査では「子育てにかかわる経済的負担の軽減」が 37.3%と最も多く、次いで、「子どもを犯罪などの被害から守るための活動の推進」が 36.0%、「確かな学力の向上」が 29.3%となっています。ついては、これらの施策の取り組みをさらに強化する必要があります。

【就学前児童調査】



【就学児童調査】

